

塗料の常識を

ひっくり返す塗料メーカー

建て主、
現場、

木の質感に合わせて
一缶ずつつくる。



生きている空間だからいい。
木の住まいは
木を生かし、
木を守る

塗料がいい。
木を生かし、
木を守る

人が住まう家は、
自然が育んだ木でつくる
住まいがいちばんです。
それは長い日本の家づくりの
歴史が証明しています。
木が良いのは、生きている素材だからです。
湿気を吸収したり吐き出したり、
呼吸しています。
四季があり、季節によって温湿度が変化する日本において、伝統的な
住まいに木が使われてきたことにはこうした理由があるからです。
杉、檜、松といった針葉樹のほか、
櫻、栗、桜といった広葉樹。
日本には他の国にないすばらしい木が
たくさんあります。
国産材を積極的にかつ適切に使うことも
おすすめしています。



小田原 健 家具デザイナー

おだわら たけし プロフィール

1934年 浜松に生まれる。
1954年 東京芝家具業界にて基礎技術を習得
1958年 吉村順三氏に師事し、設計協力
1965年 小田原設計所を設立
1968~89年 東京芸術大学建築学部講師
1985年 株式会社ベル研究所設立
2001年 WWFジャパン 山笑会 幹事就任
2005年 NPO職人の森を設立
2006年 国産材供給システム優良事例コンクール 農林水産大臣賞受賞
国内外でデザイン力による木材利用及び地域活性化を指導。

世界最古の木造建築である法隆寺の歴史は、それを物語っています。木の美点は、風化する素材だからということもあります。新材は時と共に劣化しますが、自然の木は風化を深めながら木の持つ成分により美しく進化します。こうした木の特徴を生かすには、被膜のある化学塗料で木に被膜をつくり、木の呼吸を止めてはいけません。オイルフィニッシュの良いところは、油分が木の中にしみ込んで、木を内側から保護するからです。

シオンのU-OILは、木の中にしみ込んで、質感を引き出します。木の質感に触れ、木肌を楽しむことができます。暮らしの中にもっともっと日本の木が使われるようになるために、シオンのU-OILのような良質で機能性に優れた国産の自然塗料が普及していくことを期待しています。

住まいや木材の利用について、小田原先生のおっしゃることに共感します。そうした考えに基づいて、私たちはどのような塗料をつくってお届けしたらいいのかが、シオン創業時からのテーマとなっています。

「あんしん・あんぜん」意識と
「デザイン」意識の高い
施主の方々のニーズに応える。
木を生かすために現場で腕をふるう
職人さんの仕事に応える。
木の質感を最大限に引き出す。

それがシオンの製品づくりの具体的な課題でした。木を生かす浸透型の油性塗料であることは第一。エコ先進国の塗料でありながら溶剤臭がするオイルとは一線を画すために、



刺激臭のある石油系溶剤を一切使わない 木肌の「あんしん・あんぜん」を素肌で実感できること。

さらに施主の方々のニーズと現場の要望に一つひとつ応えるために、注文を受けてからつくるジャスト・イン・タイムの生産方式で、従来の塗料業界にはなかった「1缶からオーダーできる」きめ細かな製品づくりと販売の体制を確立しました。

メーカーの都合で生産するのではなく、「住む人と建てる人の要望に応え、木の質感を最大限に引き出す」、そのような価値あるメイドインジャパン自然塗料メーカーでありたいと考えます。

石川公一郎 株式会社シオン 代表取締役

いしかわ こういちろう プロフィール

1967年東京生まれ。
1995年に田舎でのアウトドア暮らしにあこがれ、Iターンで岩手県に移住。
その後、いくつかの職種経験を重ねながら、「顧客のニーズは何か、それにどう応えるか」、「顧客の満足とは何か、それをどう実現するか」を考える日々を送る。
2002年に自然塗料に出会い、それを通じて塗料業界、住宅業界を知る。
2003年に株式会社シオンを設立し、自然塗料の製造、販売を開始する。
当時の塗料業界は、建築基準法によるシックハウス規制が始まったばかりで、「安からう悪からう & 大量生産大量消費」が最優先。
さらに、住宅業界では、住宅ビルダーは材料と工賃を込みで塗装業者に仕事を頼む、いわゆる「材工込(ざいこうこみ)」が主流で、塗装業者は材料を安く抑え、工賃を稼ぐことが当たり前となっていた。
このままでは、「あんしん・あんぜん」な住宅に住みたいという施主のニーズ、満足とは程遠いと考え、施主による材料の指定、あるいは材料の支給による「材工分離(ざいこうぶんり)」を提唱、自然塗料を施主が直接購入できるシオンダイレクト販売を始め。
U-OILにおいても、「サンプル請求」、「製品注文」は誰でもできるスタイルをとっている。